

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 11 月 18 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200577		
法人名	有限会社 メディカルサービス廿日市		
事業所名	グループホーム千同ひまわり		
所在地	広島市佐伯区千同2丁目6-29 (電話) 082-924-2567		
自己評価作成日	平成26年10月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200577-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年11月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

地域との交流が盛んで、グループ内での行事なども地域の方と時期を話し合いながら行うことも多い。春のお花見、夏のそうめん流し、玉ねぎ掘り、秋の芋ほり、冬の餅つき等は全面的に地域の方にご協力頂いている。その他にもボランティアさんをご紹介頂き、音楽発表やフラワーアレンジメントの作品作り等入居者様が生き生きとした毎日を送れるような催しを開催してもらっている。また職員・入居者様共に、町内のお祭りやスポーツ大会に積極的に参加しており、管理者は町内会の班長の一人として、地域住民との交流を大切にしている。日々の活動としては、季節を感じて頂けるよう、外出支援に力を入れている。温泉日帰り旅行は恒例となっているが、その他にも、宮島散策、パークゴルフ、電車での市内旅行などを行っている。足元が不安定な方でも車いすで外出できる場所を考え、美術展、ホテルのレストラン等様々な場所に出かけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

この事業所は川沿いの閑静な住宅地に位置し、二階建ての2ユニットで一般家屋の様な造りになっている。母体は医療法人であり、県西部を中心に病院・老人保健施設等の医療福祉関連施設を運営し、グループホームはここを含め、5事業所を有する。元々、地域からの強い設置要請があった経緯もあり、地域の積極的な協力体制の下、事業所は、活動目標でもある「地域との交流を大切」にしており、相互交流により良好な関係が築かれている。地域行事についても、今年は事業所の方から積極的に関り、更に地域に溶け込む努力をするようになった。職員・利用者共に、町内のお祭りやスポーツ大会に積極的に参加したり、近隣の保育園との世代間交流やボランティアの紹介を受けたり、火災発生時には避難誘導を行う協力体制も整っている。日々の活動としての外出支援を更に充実させ、今後は「のんびりサロン」「認知症相談所」への関与も視野に、一社会資源として地域貢献を進め、職員の人材育成により認知症ケアの一層の質的向上を図る方針である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「地域との交流を大切にします」という活動目標を掲げ、毎朝朝礼にて唱和しており夏祭り、秋祭り、グランドゴルフ大会、町内清掃、資源ゴミ回収等、積極的に協力し実践につなげている。	母体法人の理念の下に事業所のケア目標と活動目標を策定し、その達成の為に分かり易い月間目標を立てて、毎朝朝礼で唱和している。また、職員がそれに対する取り組みを毎月総点検し、勉強会で「頑張った点」「及ばなかった点」を確認し、達成度を評価して、翌月の月間目標や取り組みに繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入しており、夏祭り、町内清掃、グランドゴルフ大会、カラオケ大会、近隣の保育園の運動会ごっこや芋ほりに職員と入居者様と共に積極的に参加している。又フラワーアレンジメント、大正琴、手品など多くの地域ボランティアが訪れている。	町内会に加入し、その役員でもある地主さんに、今までは地域行事でも世話になっていたが、今年は事業所の方から更に積極的に関り、地域に溶け込む努力をするようになった。グランドゴルフ大会などの行事に利用者や職員も参加するようになったり、また、町内会と相談し、運営に協力した結果、子供神輿に加え、大人神輿も敷地内に入る様になった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域にお住いの方が将来的に、身内やご自身の入居を考えて相談や見学に見えた場合気軽に見学、相談しやすい雰囲気を作り対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	日々の活動、行事への参加の様子は写真を見て頂きながら報告しており、参加者からの意見は職員で話し合っ日々ケアに取り入れ活かしている。地域の方からは地域住民のボランティアを紹介して頂いたり、地域の行事に参加するようアドバイスを受けている。	運営推進会議は、定期的開催され、利用者家族の他、地域住民代表として町内会長・民生委員・地主・地域包括支援センター職員が参加している。事業所の現況報告や行事報告等が、家族との活発な意見交換と共に行われ、地域行事への参加などサービスの質の向上に繋げる取り組みが為されている。また、不参加の家族にも議事録を送付している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に地域包括支援センターの方に必ず参加して頂き関係を築いている。また区の主催の勉強会に参加するよう心がけている。議事録を区役所に持参、報告し次回の会議への参加を呼びかけている。	運営推進会議には毎回、地域包括支援センターの職員が参加し、情報の共有化が図られている。また、市に対しては同会議の内容をファックスで報告し、区に対しては議事録を持参し、次回の参加案内も行っている。更に「若年性認知症」など区主催の勉強会に参加して、情報収集や関係作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>研修や勉強会を通して身体拘束する事の入居者へ与える悪影響を学んでいる。新人職員にも上記を通し順次周知徹底している。又、契約時の約款にも明記されており職員は約款についても熟知するよう勉強を進めている。日中は玄関を開錠し自由に出入りできる環境にある。</p>	<p>法人全体で「身体拘束排除マニュアル」を策定し、事業所の職員は、法人の「身体拘束委員会」の内部研修等に参加している。「身体拘束はしない」必要性を認識し、具体的なケアの中で、日々実践を重ねている。例えば、日中は玄関を施錠せず、センサーを設置して、見守りをしている。また、契約時の利用約款にも明記され、職員も周知徹底に努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修や勉強会を通して虐待について理解しており日頃からケアの内容が虐待に当たらないか職員間でも確認し合い防止に努めている。又、契約時の約款にも明記されており職員は約款についても熟知するよう勉強を進めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修や勉強会を通して権利擁護に関して理解している。入居者様の必要に応じて制度の紹介や、その都度話し合いの機会を持つ様に支援を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居契約時、十分にご理解を頂けるまで説明を行い、不安や疑問点の解消に努めている。入居後も随時質問にお答えしている。又、約款に変更等あれば契約等その都度説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に意見箱を設置し誰でも記入できるようにしている。又、運営推進会議にて意見、要望をお聞きしたり、家族会にて懇談の場を設け、活発的な意見を頂き、運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議には、毎回5～7名の家族が参加し、活発的な意見交換がなされている。また、会議終了後にも家族の意見や要望を伺う場が設けられ、今年から家族会として機能している。毎年1回の満足度調査の実施すると共に家族が個別のケアカンファレンスに参加し、要望を述べるケースもある。その他、面会時や随時の電話やメールのやり取りで対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	月に1回と意見や提案があれば随時スタッフ会議を行っており、職員の意見、提案を受け付け反映させている。	月1回と随時のスタッフ会議や法人部長・看護介護部長来訪時に職員の意見、提案を受け付け、迅速な対応が可能な体制となっている。また、職員アンケートも公表され、サイボウズ（グループウェア）を活用してグループ内の情報共有を図っている。事業所には、環境整備、防災、献立など7つの係りがあり、夫々の分野からの提案も反映させている。	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	人事考課にて個人の努力や目標について詳細に聞き、取り行っている。勤務表作成では体調やプライバシーに配慮して作成している。		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	研修の機会があれば開示し、推薦したりして受けやすいように配慮している。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	同業者間でネットワークを形成し、勤務時以外に勉強会、交流会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	関連法人の相談員と協働し、今まで関わって来られた居宅のケアマネから情報を頂いたり、入居される前に面談をし、生活歴などの情報収集を行い、本人ご家族が安心してもらえるよう話し合いをし、信頼関係を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	関連法人の相談員と協力し、相談時や見学时に不安なこと、分からないことをお聞きしており、入居後もご家族との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に面談を行い状況を確認し、在宅から継続して訪問歯科を利用して頂いたり、他のサービス利用も含め専門医と相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者とともに家事を行ったりすることで役割を持って生活していると実感して頂き、時には料理のことなど教えてもらい共に生活している馴染みの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に家族に記録を確認して頂いたり、変わったことがあれば早めの相談・報告し問題解決に向けて一緒に取り組んで頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔から馴染みのある場所へのドライブを計画したり、友人の訪問等は(本人や家族に確認した上で)積極的に受け入れている。	利用者の行きつけの美容院に同行したり、個々の生活歴を参考にして外出を計画している。最近では、宮島の鹿に触りたいと言われた利用者や足が不自由で窓際から見た極楽寺の山に行きたいという利用者の意向に沿ってドライブを計画した例もある。また、知己の訪問等は人間関係や家族関係なども考慮し、柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う方同士で会話等の触れ合いが生まれるよう食事の席を工夫したり、外出にお誘いしたりしている。家事活動等入居者同士が支え合い協力できるような間に入り声掛けなど工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居される前に今後の生活などについて相談にのっている。退去後でも要望があれば相談にのるように心掛けている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	食事や入浴などホームでの暮らしやドライブなどの行事を決める時には、入居者の意見を大切にケアプランに取り入れる等し、入居者一人ひとりに合ったケアを行うよう努めている。	職員は利用者と一緒に話す時間を作り、その方の思いを把握し、行動を理解するよう努めている。概ね3ヶ月毎にセンター方式のアセスメントシートを使い、「本人・家族の発言」「担当者の気づき」を記録し、ケアプランに繋げている。風呂好きな方には、毎日の入浴支援を、また心細そうに歩く方には寄り添って歩くなど、思いを汲みとった支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に面談を行い、これまでの生活歴等の情報把握に努め、スタッフ全体に周知徹底し、入居後のケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者に普段とは違う言動があった際は連絡ノート等を活用し、スタッフ全体が情報を共有するようにし、必要があれば積極的にミニカンファレンスを開き対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>日頃から入居者や家族の思いや希望の把握に努め、ケアカンファレンスを行い、それらを反映させたケアプランを作成している。ケアカンファレンスには可能であれば本人や家族にも参加して頂いている。</p>	<p>利用者ごとの担当者が、3カ月毎若しくはその状態像に沿って随時、アセスメントやモニタリングを行う。モニタリングは、「ケアプラン実施表」で、各目標を毎日点検し、「生活行動記録」に実施できなかった理由を記録している。ケアカンファレンスで職員の意見を聞き、プランを見直すと共に参加できなかった職員には「個別ノート」で周知している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプランに記載されたサービスをできる限り毎日行い記録を残している。普段と違う変わった事があった時には連絡ノート等を活用しスタッフ全体で把握し、必要時には家族にもお伝えしてる。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>入居者や家族からの希望・要望に対して、柔軟に対応している。例えば、ドライブの希望があれば数人をお連れする行事を計画したり、希望の病院があれば情報提供を積極的に行ったりしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近くの保育園が行う運動会や野菜の収穫を一緒に行ったり、お祭り(子ども神輿等)に参加したりして地域との関わりが持てるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族の意向を大切に、希望があれば入居前から利用している医院を継続してもらっている。</p>	<p>希望があれば今まで受診していた医師をかかりつけ医とし、継続して受診してもらっている。基本的には、母体の協力医療機関で全員4週間に1度、定期受診を行っている。また、散歩がてら近くの協力歯科医療機関を受診したり、週に1度母体の協力医療機関から訪問看護を受け入れている。それらの受診情報は、「個別ノート」で情報の共有をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>情報気づきは個別ノートを作成しており、訪問看護師などに伝え相談できる体制を整えている。また、職員に看護師もおおり、随時相談し適切な受診が受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>関連法人の相談員、また看護部長との連携体制も出来ており、安心して退院できるよう、情報交換に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>本人・ご家族の意向を踏まえ、主治医と連携を取りながら対応している。また、約款に看取りの項目を明記している。</p>	<p>利用約款に「重度化した場合に関する指針」「看取りに関する指針」を明記し、家族に説明し、了承を得ている。母体法人の「グループホームにおける看取りのマニュアル」を基に実例を踏まえた勉強会を行い、意識統一を図っている。実際に看取りを行った事例が3例ある。重度化した際には、本人・家族・医師と話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急連絡網を整備し、全職員がわかるようにしている。また、緊急時対応の流れについても勉強会を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>火災時避難訓練を毎月行い、消防職員の方にも適宜来ていただいている。また、災害時などは地域の方の協力も得られており、自動火災通報装置には地域の方の電話番号も登録している。</p>	<p>消防署も適宜立ち会い、職員・利用者も参加して、毎月避難訓練が実施されている。夜間想定や火元不明などの様々な条件下でも対応できる様、実践的な内容となっている。また、地域との協力的体制も整備されており、自動火災通報装置には地域協力員の電話番号も登録され、火災発生時には近隣住民も2次避難誘導を手伝う体制ができています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、全職員、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ、羞恥心に配慮した声掛けに努めている。	最も大切にすべきケアと日頃から職員間で認識されており、「もし自分がされたら」という意識で、利用者に対し尊敬の念を持って関わっている。特に体調や食事摂取量・排泄等に関する話題には配慮をしている。また、「プライバシー保護についてのアンケート」を実施し、職員自身の行動を振りかえり、ケアの見直しにつなげる取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望を優先し、添えるよう努めている。自己決定できるような声掛けをし、本人のペースにあったケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の一方的なケアではなく、一人ひとりの希望、家族の希望を取り入れ、それに沿ったケアを実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者の希望にてヘアカット・パーマ・カラーも出来るよう整え、身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの嗜好を把握し、食事に取り入れている。庭に出来ている野菜と一緒に収穫した野菜を切って頂いたり、行事には一緒におはぎ作りなどを手伝っていた。また、外食を楽しんだりもしている。	当初の情報や食事の中で利用者の嗜好を把握し、献立係がメニューを考えている。庭で収穫した野菜や頂き物の瓜ソーメンが食卓に上ることもある。利用者は、食材の買い出し、調理の下準備など役割に応じた手伝いを職員と共に行っている。また、時には回転ずし・ラーメン等の外食を楽しんだり、フロアで家族と一緒に好み焼きを作ることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	その人に合った量を提供している。塩分にも気を配りお味噌汁は一日一回にしそのほかはスープなどにしている。水分量はおやつ時や入浴後も飲んで頂き発熱時等は摂取水分量を計り記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後一人ひとり口腔ケア・義歯洗浄を行っている。必要な場合は訪問歯科往診も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	尿意のない方も定期的にトイレ誘導を行いトイレにて排尿して頂いている。夜間もトイレ誘導を行いトイレにて排尿している。	出来るだけトイレで排泄してもらうように，排泄一覧表などで，各人の排泄パターンを把握し，夜間もトイレ誘導をしている。利用者の体調によっては，水分摂取量と排尿量の管理を行い，医療機関との連携を図っている。夜間良眠のため尿取りパッドを交換しない時であれば，本人の意向に沿って交換する，など柔軟な対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘になりがちの方には起床後、牛乳を飲んで頂いたり水分を多く摂って頂いている。主治医と相談し下剤・整腸剤にて調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	毎日入浴したい方，お昼から入りたい方などの希望をお聞きしゆっくり入浴して頂いている。曜日なども決めていない。	少なくとも週3回、10～16時の入浴を基本とし，お風呂嫌いな方には足浴を勧めるなど，状況によって柔軟に対応している。本人が希望すれば，介護計画にて立案し，毎日でも入浴可能である。庭のハーブや柚子や重曹などを入れて寛いでもらったり，日帰りの湯来ロッジ旅行などで，入浴を楽しんでもらえるよう心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	一人ひとりの生活リズムに合わせ、又その時々体調をしっかりと把握し、必要な休息がとれるように支援している。休息の際は、安眠できるような環境に配慮している。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	一人ひとりのご利用者の病名や既往歴の把握に努め、服用されている薬の目的や副作用について理解している。日々体調の変化に注意し、異常があれば主治医と連携を取りながら薬の調整など速やかに対処している。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	一人ひとりのご利用者の生活歴の把握に努めるとともに、その方が今出来ている事に着目し、日々役割意識を持って充実した生活が送れるように支援している。楽しいという気持ちを味わって頂き、出来るだけたくさん笑顔を引き出せるようなかかわりをするように努めている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	御家族様のご協力を頂きながら、一人ひとりのご希望に応じた外出ができるよう支援している。又、年間を通して季節感を味わえるような行事を計画し、季節の変化を肌で感じて頂けるようにしている。日常的にもドライブに行ったり、買い物に行って好きなものが買えるようにしたり、外食の支援も行っている。	普段から希望により、少人数で近所の公園などへの散歩を楽しんでいる。地主さんの畑で玉葱・芋掘りなどの収穫を楽しみ、新聞チラシを見て、書店に本を買いに行くこともある。季節の外出行事で、花見・紅葉狩り・初詣などに行ったり、家族の協力も得て、普段は行けないような場所での日帰り温泉旅行など、「非日常」を楽しむこともある。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	ご家族様のご理解を頂きながら少額のお金を所持されている方もおられる。ご希望があれば買い物の外出支援を行い好きなものを購入できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様の事情を考慮しながら希望がある時にはなるべく電話をできるように支援している。携帯電話を持たれている方もおられるが電話のかけ方がわからず、ご希望がある時は職員の方でつなげて、会話できるよう支援している。又、手紙を書く時は職員が援助している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングはご利用者の皆様が暖かい雰囲気の中、落ち着いて居心地良く過ごせるように穏やかな音楽を流したり、季節の花や手作りの作品を飾り、快適な空間になるように工夫している。温度、湿度等空調を管理し、快適に過ごせるよう配慮している。	共用空間は、環境整備係りを中心に職員全員で掃除をし、清潔な居心地良い場所になっている。リビングは、落ち着いて過ごせるように穏やかな音楽を流し、食事中はテレビを消して、誤嚥防止の配慮も為されている。足底がしっかり床につくように組み合わされたイスとテーブルなども、過去4つのグループホーム開設の経験が活かされた設えとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳やソファ、テーブル席等好きな場所でくつろげるよう配慮している。テーブル席はトラブルが起きない席の配慮を工夫し、会話が弾むよう気の合う方の近くにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様の協力を頂き、馴染みのタンス、ベッド、テレビ等を持ち込んで安心して落ち着いて生活できるよう配慮している。又、ご家族の写真を飾って頂き、気持ちがやすらぐようにされている方もおられる。	居室には、エアコン・洗面台が設置され、ベッド・小物等、使い慣れた物や家族の写真・編み物等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫が為されている。写真については、本人の若い頃の物を家族に依頼することもある。また、術後で足元不安定なため、家族が枕元に体動センサーを設置して転倒防止を図っている事例もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全に移動できるよう手すりを要所に設置している。手すりの位置、テーブルや椅子の高さをご利用者の皆様が使いやすいようにしている。トイレや居室が分かりやすいよう表示している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「地域との交流を大切にします」という活動目標を掲げ、毎朝朝礼にて唱和しており夏祭り、秋祭り、グランドゴルフ大会、町内清掃、資源ゴミ回収等、積極的に協力し実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入しており、夏祭り、町内清掃、グランドゴルフ大会、カラオケ大会、近隣の保育園の運動会ごっこや芋ほりに職員と入居者様と共に積極的に参加している。又フラワーアレンジメント、大正琴、手品など多くの地域ボランティアが訪れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域にお住まいの方が将来的に、身内やご自身の入居を考えて相談や見学に見えた場合気軽に見学、相談しやすい雰囲気を作り対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	日々の活動、行事への参加の様子は写真を見て頂きながら報告しており、参加者からの意見は職員で話し合っ日々ケアに取り入れ活かしている。地域の方からは地域住民のボランティアを紹介して頂いたり、地域の行事に参加するようアドバイスを受けている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議に地域包括支援センターの方に必ず参加して頂き関係を築いている。また区の主催の勉強会に参加するよう心がけている。議事録を区役所に持参、報告し次回の会議への参加を呼びかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>研修や勉強会を通して身体拘束する事の入居者へ与える悪影響を学んでいる。新人職員にも上記を通し順次周知徹底している。又、契約時の約款にも明記されており職員は約款についても熟知するよう勉強を進めている。日中は玄関を開錠し自由に出入りできる環境にある。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修や勉強会を通して虐待について理解しており日頃からケアの内容が虐待に当たらないか職員間でも確認し合い防止に努めている。又、契約時の約款にも明記されており職員は約款についても熟知するよう勉強を進めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修や勉強会を通して権利擁護に関して理解している。入居者様の必要に応じて制度の紹介や、その都度話し合いの機会を持てる様に支援を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居契約時、十分にご理解を頂けるまで説明を行い、不安や疑問点の解消に努めている。入居後も随時質問にお答えしている。又、約款に変更等あれば契約等その都度説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に意見箱を設置し誰でも記入できるようにしている。又、運営推進会議にて意見、要望をお聞きしたり、家族会にて懇談の場を設け、活発的な意見を頂き、運営に反映させている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回と意見や提案があれば随時スタッフ会議を行っており、職員の意見、提案を受け付け反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課にて個人の努力や目標について詳細に聞き、取り行っている。勤務表作成では体調やプライバシーに配慮して作成している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の機会があれば開示し、推薦したりして受けやすいように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者間でネットワークを形成し、勤務時以外に勉強会、交流会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	関連法人の相談員と協働し、今まで関わって来られた居宅のケアマネから情報を頂いたり、入居される前に面談をし、生活歴などの情報収集を行い、本人ご家族が安心してもらえるよう話し合いをし、信頼関係を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>3ヶ月に1回のケアプランの更新時には、必ず家族の要望を聞いている。その他面会時にも細かい相談や要望に応じ、関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>必ず何回か面談を実施し、ご本人や家族のニーズに合った支援を見極め、必要なら他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ご本人の出来ている事、出来る事を継続して行って頂き、役割を持って頂くことで暮らしを共にする関係を築いていけるようなケアを実践している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご本人と家族の気持ちを常に確認し、大切にしている。何か起きた時は家族に相談しながら共に本人を支えていく関係を築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>昔からのご友人が面会に来られたり、兄弟の方が面会に来られたりと、ご本人のこれまでの人間関係が継続できるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が間に入り、会話の援助をしたり、仲の良い方の席を隣にしてコミュニケーションの時間を増やしたりと、人との関わりが増えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居前に、今後の生活の仕方などについて相談し、支援に努めている。退居後も要望があれば必要に応じてフォローや支援をしていくように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の希望に添ったケアプランを立て、それに添ったケアを提供するように努めている。困難な場合は、ご本人の意向をくみ取り、出来るだけ希望に添えるよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時の情報や病歴等をスタッフ全員で共有し、足りないところをご本人や家族から聞きとるなどして、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活行動記録や連絡ノート、カードックスを活用し、一人ひとりの暮らしの現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	3ヶ月に1回家族も同席のカンファレンスの場を設け、本人、家族の希望を尊重したプラン作成に努めている。		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	いつもと違うと感じる事は、小さなことでも介護記録に残し、申し送りや連絡ノートで職員間での情報の共有に努めている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	ボランティアや地域の方に積極的に入って頂き、既存のサービスでは難しい事も柔軟に対応するように努めている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	地域の住民や民生委員の協力のもと、地区の夏祭りやいもほりなどに参加している。ボランティアのホームでの演奏会なども行っている。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	定期的にかかりつけ医を受診して頂き、適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>職員に看護師がおり、日常的に相談できている。訪問看護師とは重要な情報、相談等、訪問看護記録ファイルを利用している。日常的に連絡できるようにしているので連携体制も整っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>関連法人の相談員との連携体制を整えており、ご家族が安心できるよう入院時から情報交換をし早期に退院できるよう努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居契約時に重度化や終末期の指針を説明している。本人やご家族医師の意見や要望をふまえ、対応できるケアについて説明し支援に取り組んでいる。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変や事故発生に備えその都度話し合い緊急時対応の流れ、緊急連絡網を整備し、全職員がわかるようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>避難訓練は毎月行い全職員がその方法を身につけ取り組んでいる。自動火災通報装置には地域の方の電話番号も登録しており話し合いや確認を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、羞恥心を損ねない言葉かけや誘導に心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや日々のリズム、ペースに合わせた支援に取り組み、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の一方的なケアや決まりでなく一人ひとりの思いや希望を大切に過ごしていただきケアプランに沿ったケアを実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者の意向に沿って身だしなみを整え、好きな服を着て援助を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりが食べやすい工夫をし季節のものを食事に取り入れている。行事や誕生会など食べたい物や行事にあったものをお出ししている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスを考え献立を立てており、主治医より指示があれば個々に合わせた食事量にしている。水分摂取量にも気を配り好みのものや回数など状態に応じている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の歯磨きは欠かさず義歯の手入れなど個々の出来る事を大切に出来なくなったことはフォローしている。歯科受診や訪問歯科往診より指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを探り出来るだけ排泄機能を維持できるよう取り組んでいる。夜間オムツ使用の方から起こしてほしくない要望あり関係機関に相談し抗菌作用の高い尿とりパッドを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	牛乳、ヨーグルトや繊維の多い食事を取り入れ体操や散歩で腸の運動に働きかけている。便秘傾向の方には、主治医に相談し下剤や整腸剤にて調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴したい日、本人の希望や時間帯は希望通りにできるように支援している。一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援をするよう心かけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>個人の生活習慣を尊重し、体調によっては休んで頂き、朝他者様と御一緒に起きられない方には御本人の希望を尊重した対応をしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>職員も薬の説明書を読み、副作用についても理解するよう努め、理解しにくいものは他の職員に相談などし、理解に努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>入居者さまの過去の情報を把握し若い時のお話など楽しく、嬉しかった事などを一緒に思い出せるようにしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>日頃から、ドライブ、買い物、博物館、外食に出かけ、ご家族様と御一緒に日帰り温泉に出かけたり地域の方の畑で玉ねぎ掘りの収穫を楽しまれている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>少し高額のお金を持っておられる利用者様もおられますが、現時点ではご自分で管理され、ご本人が欲しいもの（食べ物など）がある時はご本人と買い物にご一緒したりしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご家族の方にも承諾を頂いて利用者さまが家族に電話して欲しいと言われた時は、電話をして、お話などもして頂いている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビングに季節の花や絵、カレンダーなどを飾り、利用者様の寒さ、暑さなどの体温の調整（クーラーなど）に気を配っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ウッドデッキの椅子に座り、お茶を飲んだり、歌を歌ったりされ、利用者様同士がソファーに座られ楽しく談笑されたりしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご家族様の協力のもと、自宅で使用していた家具、テレビ、小物等を持ち込んで頂き、安心して過ごされるよう工夫している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレなどの手すりも安全に配慮し、ご自分で立ち上がる時など、持ち方にも工夫して頂くようにしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム千同ひまわり

作成日 平成27年1月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	家族様に普段のお食事内容が伝わっていない	なかなか面会に来れず、多忙のため連絡が取りにくい状況の家族へ伝える術を考える	月に一度お手紙を送付しているのを活用する。日頃から昼メニューを写真で残すように心掛ける	12か月
2	19	入居直後の戸惑い・不安など家族と離れたために感情が不安定になってしまう方への対応策	新たに入居された方の戸惑いや不安などを家族と協力しながら支えて行きたい	入居直後はご家族と連絡を密にし、また職員も入居者様の不安な思いを共感しサポートする。そのためには職員に対しても先輩からの育成・アドバイスや研修がかかせない	12か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。